授業科目 在宅看護学

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
丸山敬子		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要・一般目標：G10】 急速な高齢化、家族構造の変化、人々の健康意識の変化、医療費削減・在院日数の短縮化などによって、在宅ケアのニーズは増大している。それに伴い、看護職に求められる能力も複雑で高度化してきている。こうした背景をふまえ、在宅看護学では保健・医療・福祉の有機的な連携を基盤として、在宅療養をしている人とその家族を、「地域で生活すること」「その人らしく生きること」に視点をおいて理解し、在宅看護の機能と役割について学習する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 在宅看護が必要とされる背景を説明できる。 2. 在宅看護の対象となる個人とその家族の特性、コミュニティとのつながりについて説明できる 3. 在宅看護の対象者のニーズについて、疾患や障害の特性をふまえて概説できる 4. 在宅看護の活動の場、保健医療福祉対策、ケアシステムについて説明できる 5. 在宅看護における倫理について概説できる 6. 在宅看護の今後の課題と展望について、述べるができる					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	社会の諸情勢と在宅看護の歩み、役割、法律			1	講義
2	在宅看護の対象の特性とコミュニティとのつながり			2	講義 個人ワーク
3	在宅看護の対象の疾患や障害の特性をふまえた理解と支援に必要な理論			3	講義
4	在宅看護の対象の家族の理解と家族支援に必要な理論			2.3	講義
5	在宅看護の場と社会資源			4	講義
6	在宅ケアシステムとリスクマネジメント			4	講義
7	在宅看護の倫理と今後の課題、展望			5.6	講義 個人ワーク
8	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		Essentials 在宅看護学	木下由美子	医歯薬出版株式会社	2007・2,600円
参考書		国民衛生の動向		厚生統計協会	
その他の資料		必要に応じて配布する			
【評価方法】 授業への貢献度（出席及び提出物含む）30% レポートあるいは筆記試験 70%			【履修上の留意点】		